

※このメールは、MIT・エナジー・ビジョン社の視察セミナーにご参加頂いた方々に BCC  
でお送りしています。

※四半期に 1 度程度、メールニュースをお送りします。

※お手数ですが、ご迷惑に思われる方は、「送付不要」とだけ記して、送信者に返信してい  
ただけますと送付リストから外します。よろしくお願いいたします。

皆さま、ご無沙汰しています。

日本では 5 月に北海道で 39 度の記録的な猛暑となり、気候変動について、すでに常態化  
してしまったような感覚を持ちますが、報道ではそれほど関連付けられなかったような印象  
です。皆さまはどう感じられましたか？

インド北部でも 5 月末には 50 度(!)を超える熱波が到来したり、ドイツでも 4 月は記録的  
な暑さになりました。気候危機対策は待たないと言えるのではないのでしょうか？

さて、今回も、MIT メンバー 3 名から、皆さまにコラムと各種の告知についてメールニュース  
をお送りします。今回は、村上→滝川→池田という順でコラムを書いています。

それでは、最後までお楽しみください(村)。

## MIT: 村上

### 2019 年は欧州発の気候危機対策の年に！

2019 年の 5 月には EU 議会選挙が行われました。選挙前のメディアでは、①Brexit の影  
響、②難民問題からはじまった欧州各地での右派ポピュリズム政党の躍進、という 2 つの  
ポイントばかりが取り上げられていましたが、蓋を開けてみると、右派や極右政党の躍進に  
は一定の抑制がなされ、西ヨーロッパでは緑の政党が大躍進を遂げました。

とりわけドイツでは、緑の党が第二政党の位置まで得票率を伸ばし、選挙後のメディアは、  
緑一色の報道に染まりました。この背景には、2 つのポイントがあると村上は個人的に考え  
ています。

一つ目は、昨年から、スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんが、たった一人ではじめた、毎  
週金曜日に学校をストライキして、有効な気候保護活動を求めるデモが、今年 3 月ごろか  
ら欧州では完全に若者の大きな社会活動へと膨れ上がった時代の波です。

フライデー・フォー・フューチャーと呼ばれるこの取り組みは、世界各地で若者がストライキ、  
デモをして、EU 議会選挙前には、全世界で 1350 か所、180 万人規模、ドイツ国内だけで  
も 32 万人規模となる社会運動へと発展しました。そうした若者らの呼びかけに共感できる

世代も皆、緑の取組、気候危機対策のより強力な推進を求めて、投票率は上昇し、緑の党への雪崩的な支持へとつながっています。

<https://www.fridaysforfuture.org/>

そしてもう一つが、新しいメディアの完全なる台頭です。上記でも取り上げた若者世代は、すでにテレビや新聞というメディアから情報入手することは、ほぼしていません。SNSで情報がシェアされ、Youtuberが情報発信者として大きな影響力を得るような社会に変わりました。ドイツでは人気YoutuberのRezoが、EU議会選挙前に現メルケル政権への批判を行い、そうした主張に賛同するその他のYoutuberが共同でメッセージを発信し、社会に大きな影響を与えました。

※内容は、①EU議会選挙には投票しましょう、という呼びかけと、②メルケル政権のCDU/CSU党、大連立相手のSPD党には投票しないようにしましょう、というキャンペーンでした

<https://www.youtube.com/watch?v=4Y1IZQsyuSQ&t=5s>

<https://www.youtube.com/watch?v=Xpg84NjCr9c&t=4s>

1時間近くにおよぶ過去の政策への批判という難しい内容だったにもかかわらず、再生回数は1500万回近くにもなり、社会現象となったわけです(ドイツの総人口は8200万人と、日本よりも大幅に少ないですから、それを加味して、この回数や内容を評価する必要があります)。

こうした「若者」、「SNSでの拡散」、「Youtube等の新しいメディアの台頭」という3つの理由と、現政権の5年以上にわたる気候危機対策への不作為が、EU議会選挙の結果につながり、現在のドイツの世論調査では、政権である保守政党CDUを抜き、緑の党が支持率でトップに躍り出るようになっています。

日本にはなぜこうした大きな動きが伝わっていないのでしょうか？

数多くの理由があるかと思いますが、一つには、英語などの世界言語のメディアへのアクセスということが大きく関係しているように思います。私自身、ドイツで教育を受けている息子やその友人らの成長を見ていると、現在の若者世代は、YoutubeやNetflixなどで英語などの外国語にハードルなしでアクセスしている様子を見せつけられています。しかし、日本の若者の多くは、グローバルなインターネットが存在しても、あくまでも日本語、日本文化、日本社会というドメスティックな環境の中にいます。

ということで、私自身の活動も、大人、男性という対象に向けての執筆、講演、コンサルという仕事から、若者、女性という属性にアクセスして、グローバルな視点でまちづくりやエネルギーの問題を議論できるようにしたいと願い、Youtubeのチャンネルを開設しました。もし、ご興味があればご視聴、チャンネル登録していただけると幸いです。

[https://www.youtube.com/channel/UCLwq67RF5ZhgcUI\\_ud4ovBA](https://www.youtube.com/channel/UCLwq67RF5ZhgcUI_ud4ovBA)

**！お知らせ！**

**★ 共著『進化するエネルギービジネス—100%再生可能へ！ ポスト FIT 時代のドイツ』が好調販売中です！**

昨年は、MIT・エナジー・ビジョンが長年企画を温めてきた共著本を出版に漕ぎつけることができました。とりわけ自然・景観保全と共存する持続可能な再生可能エネルギー開発を扱った書籍は前例がありません。まだお持ちでない方は、是非この機会にお読みになってみてください。

Amazon での販売リンク: <http://amzn.to/2u9O0V4>

本書ではポスト FIT 時代に突入した、「ビジネスとしての欧州再エネ」の新側面に迫ります。記述分野は、自然と調和する持続可能な発電設備のデベロップメントから、自家消費、直売、VPP、系統の柔軟化、デジタル化、セクターカップリングまで幅広く取り扱っています。

タイトル:『進化するエネルギービジネス—100%再生可能へ！ ポスト FIT 時代のドイツ』

出版社:新農林社

著者:村上敦、滝川薫、池田憲昭、西村健介、梶村遼太郎

ISBN-13:978-4880280950

**MIT: 滝川**

**外装材としての太陽光発電のポテンシャル**

今年も瞬く間に夏至が迫ってまいりました。エネルギー大転換に関してこの春を振り返ると、スイスでも希望を感じさせる出来事がいくつかありました。例えば、若者たちの気候デモによる圧力が、チューリヒ州やルツェルン州での選挙で、緑の党が大幅に議席数を増やす快挙に繋がりました。

もう一つの良い知らせは、スイスの建物上における太陽光発電の現実的なポテンシャルが非常に大きいことが把握されたというものです。これはエネルギー庁と気象庁、地形測量庁が協力して作った、全国版のソーラー建物台帳の外壁編が完成したことにより分かりました。同台帳は、国内にあるすべての建造物の屋根と外壁における太陽光と太陽熱利用のポテンシャルを分析し、ネットで閲覧できるようにしたものです。

エネルギー庁の報告によると、既存の外壁と屋根のうち太陽光利用に適した面積の一部を使うだけで、年 67 テラワット時が得られるそうです。そのうち 17 テラワット時が外壁からになります。ちなみにスイスの現在の電力の消費量は年 60 テラワット時です。スイスでは太陽光発電の野立ては行われていないので、これは良い知らせです。

これまで国の 2050 年シナリオでも太陽光の発電量は年 11 テラワット時しか計算に入れられていませんでした。上記の建物上のポテンシャルの一部と既存水力や新規風力をあわせると、セクターカップリング後の電力需要も十分に賄える計算になります。ただし、2050 年までにこのポテンシャルを活用し、パリ協定の目標を満たすためには、現在の 5 倍の速度での増設(とそのための方策)が必要です。

外壁に設置された太陽光発電は、日差しの角度が低い冬に発電量が多くなるため、北国では貴重な冬の電源であると考えられています。まだパイオニアの範囲ではありますが、外装材として太陽光発電を使ったビルやホテル、工場、集合住宅の新築・改修例も増えてきています。同時に建築的にも美しく収まるような、太陽光発電には見えない色や質感、模様の外装材用パネルの種類も増えてきています。

電車の窓から都市近郊の建物群を眺め、次の数十年の変遷を想像すると、少しわくわくしてくる今日この頃です。

## MIT: 池田 Face book 所感

つい最近 Face book を始めました。長年「自分は FB やらない」と頑固に拒んでいました。「やらないで済ませられる人は逆に羨ましいです」というコメントも何度かもりました。でも、情報とネットワークを主要な資本として仕事をしているものとして、これ以上拒んでいたら、せっかくのポテンシャルが失われてしまうかもしれない、という思いと、ここ数年、メールを読まない人が若干増えていることに危機意識をもって、始めてしまいました。

遠く離れた人たち、普段会えない人たちと、ネット上で簡単に交流ができること、情報を共有できることは非常にいいことだと実感しています。また、私は人の顔は覚えられても、名前を覚えるのが得意でないので、お客さんや知り合いの把握、検索にも役立ちます。

でも FB では、深く、じっくり、なコミュニケーションはできません。短く、印象的に、素早く、が求められます。FB をはじめて 4 週間あまり、どうせやるなら、しっかり使おうと、それなりに時間を費やしていますが、どこか物足りなさを感じます。直接人と会って話すこと、電話で親密に話すこと、またじっくり本や文章を読むこと、じっくり考えること、一つの文章を熟慮して何度も書き直して仕上げること、などの貴重さ、大切さ、満足度の高さをより感じています。

エネルギーのテーマに関しても、直近の話題や気づいたこと、感じたことをダイレクトに迅速に情報交換するためには FB はとてもいい道具です。ですが、複合的で学際的なテーマは、しっかり基礎を理解すること、じっくり読み込むこと、じっくり冷静に多面的に考えることが求められます。熟慮され整理された情報が詰まっている書物や、いいドキュメンタリー映画、講演やセミナーは、時間と情報に追われ、煽られている現代人にとって、より一層、貴重な時間と人生の深みを与えてくれるものだと思います。

とは言うものの、FB の利点とポテンシャルは、持続可能に使っていければと思っております。このメーリングリスト上の方々に、私がまだ探せていない方々もいらっしやと思います。友達申請は歓迎します。

**！お知らせ！**

**★ソーラーコンプレックス社による日本語ニュースレター**

下記リンクからソーラーコンプレックス社の日本語ニュースレター2019年春号を読むことができます。ミット・エナジー・ヴィジョンでは、南ドイツの市民エネルギー企業ソーラーコンプレックス社が発行するニュースレターの日本語版の作成をサポートしています。同社の活動が、日本で地域密着の再生可能エネルギー事業に取り組む方々の参考になることを期待しています。

春号 <http://48787.seu1.cleverreach.com/m/7303573/>

今回のメールニュース、いかがでしたか？ それでは、次回もお楽しみに！